

## 評価結果概要表

作成日 平成19年 12月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	170200760		
法人名	医療法人社団 豊生会		
事業所名	グループホーム「すぎの子の家」		
所在地 (電話番号)	札幌市東区東苗穂3条1丁目10番2号 (電話) 011-782-0706		
評価機関名	NPO法人福祉サービス評価機構K-ネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7愛生館ビル601B		
訪問調査日	2007年12月12日	評価確定日	2008年1月23日

【情報提供票より】 19年11月28日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成10年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14 人 非常勤 3 人 常勤換算 3 人	

## (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート	
	3階建ての	2階 ~ 3階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	120,000円	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	500 円	おやつ 50 円

## (4) 利用者の概要(平成19年11月28日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	6 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.2 歳	最低 77 歳	最高 93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	東苗穂病院・たんぼぼクリニック・D0ケア歯科クリニック・老健ひまわり
---------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「すぎの子の家」はH12年に開設され、翌年H13年には現在の鉄筋3階建てに新築された。1Fはサービス「きらら東苗穂」2・3Fが認知症対応型2ユニットで、利用者は「ゆっくり・いっしょに・楽しく豊かに」をモットーに静かな環境で穏やかに生活をしている。当ホームは運営母体である東苗穂病院による利用者への万全な医療体制が整えられ、安心した生活が出来るように医療と介護が連携されている。家族の来訪も多く管理者はじめ職員は、利用者・家族のニーズに応えられるように、研修を積みサービスの質の向上に努めている。家族からの信頼も厚く地域密着型サービスへの取り組みが期待され、安心して暮らせるグループホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価においての外部評価・自己評価の改善点は、全職員で話し合い改善計画へと取り込まれ、改善課題に向けて検証や実践に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価を行い、各ユニットごとに内容を検証し評価をまとめて、サービスの質の向上に活かされる様に取り組みが行われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議はホームの運営内容・方針、外部・自己評価の結果、ホームの現状を説明して、ホームの役割を理解してもらうと共に、意見交換の場として活用されている。地域住民参加による災害時の緊急応援や、認知症高齢者への協力体制が整えられるよう今後も期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱の活用や、家族が来訪時に積極的に係りを持つように努めており、定期的にお便りを発行し、日常生活や健康状態を報告し、常に家族の意見・要望・不安等を聞ける、話し合う場を設けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	玄関前の掲示板でホームからの情報を発信していて、近隣住民との交流が図られており、町内会・老人クラブに加入し、地域の行事や活動に積極的に参加している。更に地域住民との密なる連帯が期待される。

# 評価結果（詳細）

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>．理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域のかかわりを強くしたいとおもいで、毎年度、理念・目標を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はじめ職員は理念を共有し、ミーティングや、カンファレンスの時に確認し、玄関やスタッフルームの見やすい所に掲示している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として、町内会の行事、ジンギスカンパーティ・盆踊り・古紙回収には積極的に参加して、地元の人々との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、ケアサービスの質の向上に努めている。又評価結果をミーティングやカンファレンスなどに確認し、改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催され、議事録も整えられ全職員・家族に報告されている。前回で取り上げられた検討事項や意見・要望については可能な限り反映する様に取り組んでいる。		地域住民の参加により、地域社会の理解と支援が得られるホームである様に意見交換がされるよう、今後も期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	札幌市のグループホーム管理者連絡会議に参加をして、各事業所の実情・取り組みの状況を報告するなど、質の向上をはかっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への便りは定期的に発行され、家族の来訪時又は電話・手紙で日常の生活状況・健康状態について、細やかに報告し、金銭管理は出納帳で報告し、確認のサインを頂いている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族への手紙・面会時に問いかけ、話しやすい雰囲気作りをしている。又意見・苦情があった場合は、発生要因を分析し課題を検討し、質の向上に取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にとどめて、馴染みの関係作りを大切にしているが、やむを得ない場合には、家族へお便りや来訪時に知らせ、安心した生活が継続出来る様に配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修・勉強会への積極的に参加をして、研修報告会を開き、職員間で内容を共有し、研修報告書を全職員が閲覧出来るようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の連絡会・会議などに参加し、ネットワーク作りに取り組んでいる。また交流・学習会に参加の際は、情報・意見の交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している		
	16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況・要望に応じて、受診時の付添い、自宅への送迎など、その時々に応じた柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を受け、医師と相談しながら健康管理を行っている。又、医療機関を受診する際、家族または職員が付添い必ず添書を持参し、口頭だけではなく文書で情報を伝えている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末期のあり方については、まだはっきりとした方針は決まっていないが、ホームで対応出来ることは主治医・家族と話し合い進めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを尊重し、言葉かけや対応に配慮し、職員全員が個人情報保護法を理解し、記録等は鍵のかかる保管、管理をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の基本的な1日の流れを職員が確かに把握して、一人ひとりの体調に配慮しながら、個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
		食事を楽しむことのできる支援			
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者と一緒に考え、下準備・盛り付け・片付けを協働で行っている。団欒の時間を大切に楽しみながら、食事が出来るように支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯を決めず、一人ひとりの気持ち・希望に合わせて支援をしている。また入浴を嫌がる利用者には職員も一緒に入るなど、安心感を持ってもらう工夫をし支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		役割、楽しみごと、気晴らしの支援			
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事作業・裁縫・体操での声かけなど、利用者の経験や知識を発揮する場面が作られ、家事作業には利用者同士での役割・分担もされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、近隣への散歩・ドライブをして、気分転換を行っている。また帰宅願望の強い利用者には、可能な限り付添い出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
		鍵をかけないケアの実践			
26	66	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠はせず、ドア開閉が分かる様にチャイムを付け対応している。職員による気配り・目配りを怠らず、自由な暮らしが出来るように支援をしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の消防設備の点検と避難訓練を行っている。地域住民との協力体制は今後も働きかけ、協力を呼びかけて行く。		地域住民の協力を得た避難訓練が出来るよう、運営推進会議などで協議をすすめるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の献立・食事摂取量・水分量を記録し、食事摂取量が少ない時は嗜好に合わせた代替品を提供し、補食の配慮をしている。又定期的に管理栄養士のアドバイスを受け、学習会を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間にはイス・ソファが置かれ、利用者相互の交流しやすい環境があり、季節に応じた壁飾り・生花が飾られて、五感や季節感を楽しめるように工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の使い慣れたベット・タンス等の生活用品が持ち込まれ、家族のスナップ写真などが飾られ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		